

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A) 昭61-256850

⑫ Int.Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)11月14日

H 04 M 1/00

F-7608-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 電話機の電波防止用プラグ

⑮ 特 願 昭60-98271

⑯ 出 願 昭60(1985)5月8日

⑰ 発 明 者 中 島 勲 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑱ 発 明 者 谷 島 昭 一 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑲ 発 明 者 須 藤 洋 三 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑳ 出 願 人 富士通株式会社 川崎市中原区上小田中1015番地
㉑ 代 理 人 弁理士 松岡 宏四郎

明 細 書

1. 発明の名称

電話機の電波防止用プラグ

2. 特許請求の範囲

プラグ本体(9)のモジュージャック部(91)とモジュラープラグ部(92)間に、トロイダルコア(51)を付設し、

該トロイダルコア(51)にモジュラーの接続コード(90)を数ターン巻回したことを特徴とする電話機の電波防止用プラグ。

3. 発明の詳細な説明

〔概要〕

電話機のモジュージャックと送受話器の接続コードに付設したモジュラープラグとの間に、トロイダルコアを有する電波防止用プラグを介在せしめて接続する。

〔産業上の利用分野〕

本発明は、電話機の電波防止用プラグに係り、とくに電話機と送受話器の接続部に電波妨害対策

として電波防止用プラグを介して接続するようにした電話機の電波防止用プラグに関する。

近年、製造部門をはじめ事務部門等あらゆる部門に亘り作業効率向上のためコンピュータ等が導入され、とくに事務部門では机上で使用されている。したがって相互の機器間での電波妨害は避けられず、電話機もその例にもれず、電話機と送受話器を接続するカールコードが妨害電波を拾い、送受話に支障を来すことがあるので、この電波を防止対策の容易な電波防止用プラグの開発が強く要望されている。

〔従来の技術〕

第4図は、従来の電波妨害対策を施した電話機の内部平面図である。

図において、合成樹脂成型品からなる電話機1の底部のケース11内には図示しない回路を搭載したパッケージ2が実装されており、このパッケージ2の入出力側コネクタ3に隣接して、トロイダルコア5を配設し、このトロイダルコア5にリー

ている。このコンタクト921は各接続線90に対応して設けられ、矢線C方向から見た第3図(ハ)に示される如く、コンタクト921の一端端が露出している。この露出した部分は電話機の本体に設けられるジャック部4(ジャック部91相当)に係合し、ジャック部4のコンタクト(911相当)と接触し導通がとられる。

なお、本発明におけるプラグ本体の構造として、ジャック部91は電話機のジャック部4、プラグ部92は送受話器側の接続コード8の先に取り付けられるプラグ部81と対応した構造となっている。

(発明の効果)

以上の説明から明らかなように、本発明によれば電話機の電波妨害対策が容易に行なえ、とともに、量産化すればコストダウンに極めて有効である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、上記発明の一実施例を説明する平面

図、

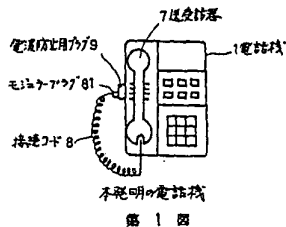
第2図は、本発明の電波防止用プラグを説明する外観斜視図、

第3図(ハ)には第2図のプラグの一部破断斜視図、第3図(ハ)に正面図、第3図(ハ)に側面図、第3図(ハ)に第3図(ハ)のプラグの要部拡大図、

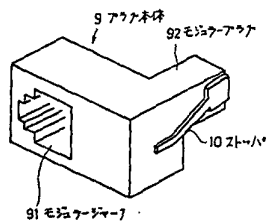
第4図は、従来の電波妨害対策を施した電話機の内部平面図である。

図において、1は電話機、2はパッケージ、3はコネクタ、4、91はモジュージャック、5はトロイダルコア、6はリード線、7は送受話器、8は接続コード、9はプラグ本体、10はストップ、11はケース、81、92はモジュアープラグ、をそれぞれ示す。

代理人 弁理士 松岡 宏四郎

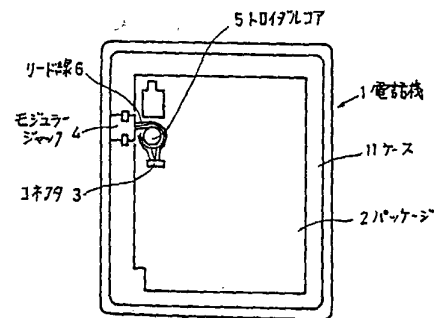


第1図



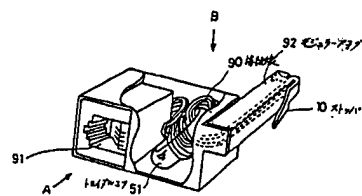
本発明の電波防止用プラグ外観斜視図

第2図



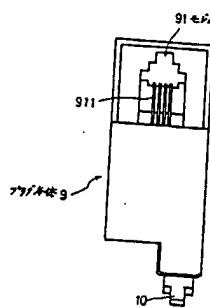
従来の電話機電波防止構造

第4図

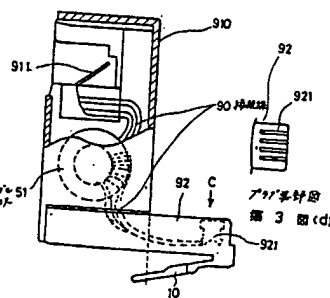


本発明の各部破断斜視図

第 3 図 (a)



本発明の正面図
第 3 図 (b)



本発明の側面図
第 3 図 (c)